

第1学年 国語科学習指導案

2 組 計24人(男子10人 女子14人)

指導者 平 田 秀 司

1 単 元 「よく 見て かこう」 (教材「しらせたいな、見せたいな」光村1年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、これまで「すきなもの、おしえて」や「てがみをかこう」の学習を通して、友達から聞いた好きなものや自分の思いや考えを短い文章に書いて表す経験をしてきている。その中で、友達や家族と文章を通して双方向的なやりとりをすることで、相手や目的に応じて文に書いて表すことの楽しさを感じつつある。また、絵日記等の家庭学習や生活科の学習における観察を通して、楽しかった経験や動植物の成長の様子について文に書き表すことができるようになってきている。

そこで、ここでは観察や体験を通して書くために必要な事項を集めたり、相手に伝えたいことを分かりやすく伝えるために簡単な組立てを考えたりしながら書くことを本単元のねらいとした。

教材「しらせたいな、見せたいな」は、家族に学校の様子を知らせるために対象を決めて調べたり、調べたことを絵や文にまとめたりするようになっている。そのために、子どもたちは相手意識をもちながら見つけたものを文章に書こうとする意欲をもつことができる。また教材文では、学級で飼っているモルモットについて色や形などの特徴をまとめごとに文章に表してあり、五感を通していろいろな視点から対象を観察することのできるよさに気付くことができるため、この時期の子どもたちにふさわしい教材であるといえる。

本単元で子どもたちは、互いの書く対象に関する必要な事項について尋ねたり答えたりするやりとりを行うことで、観察する視点に広がりをもつことができるとともに、より詳しい内容を書いて伝えることができるようになる。また、自分や友達の書いた作品を読み合うことで、文を書く際に注意すべき句読点や字句の正しい表記について改めて理解するとともに、互いの作品のよさに気付くことができると考える。

そして、これらのことは、1年間を振り返って書きたいことを見付け、必要な事柄を収集、選択し文章に書き表す「いいこといっぱい一年生」の学習へとつながる。

(2) 単元の目標

【◎は単元の重点目標】

- 伝えたい対象の特徴を進んで観察したり、文章に書き表したりしようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 題材にした対象の特徴や文の組立てについて話し合うことができる。
【話す・聞く能力】
- ◎ 書こうとする題材に必要な事項を収集することができる。
- ◎ 知らせたいことと見せたいことについて、相手に分かりやすいように組立てを考えながら文に書き表すことができる。
【書く能力】
- 教材文や友達が書いた文章に興味をもち、伝えたいことを考えながら読むことができる。
【読む能力】
- 主語と述語の関係に注意して文を書くことができる。
【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 本単元・本教材に関する実態(調査人数24人 () は人数 H17.9)

- | |
|--|
| ① 家族に学校の様子をよく教えますか。(内容は複数回答) |
| よく教える (24) ・ ・ ・ ・ ・ 給食のこと(18) 遊びのこと(17) 友達のこと(17) 勉強のこと(15) |
| 生き物のこと(10) 先生のこと(9) |
| 教えない (0) |
| ② 手紙を書くことは好きですか。(内容は複数回答) |
| 好き (20) ・ ・ ・ ・ ・ 書くことが楽しい (12) 喜んでくれる (7) |
| 返事がもらえる (3) 秘密を打ち明けられる (1) |
| 好きではない (4) ・ ・ ・ ・ ・ うまく書けない (3) 恥ずかしい (1) |
| ③ 書いて伝えることのよさは何だと思いますか。(複数回答) |
| いつまでも残る (13) 楽しい (10) 好きなときにできる (8) |

本学級の多くの子どもたちは、学校の様子を家族に伝えることを好んでいて、内容も多岐にわたっている(①)。また、友達や親戚などに対して、「書くことが楽しい」、「相手が喜んでくれる」など、手紙を書くことを好んでいる子どもが多い。さらに、「いつまでも残る」などの理由を挙げており、書いて伝えることのよさに気付い

書き直しができる (6)				
④ 見たものの特徴を言葉で表しましょう。(複数回答)				
特徴の数	0 (3)	1～2 (12)	3～4 (6)	5以上 (4)
内容	外見 (21) 性格 (12) 行動 (10) 対象に対する感想 (2)			
⑤ 聞いたことを文で書きましょう。				
正答 (10)				
誤答 (14) 読点の打ち忘れ (8) 句点の打ち忘れ (4) ひらがなの間違い (2)				

ている子どもが多い。しかし、「思っていることをうまく文に表すことができない」などの理由から書くことに抵抗を感じている子どももいる (②, ③)。

対象を観察して特徴をとらえる質問に対しては、多くの子どもが

特徴を見付けることができたが、外見や行動など視覚的に特徴をつかむ子どもが多く、半数以上の子どもがいくつかの視点から特徴をつかむまでには至っていない (④)。また、表記の仕方については、読点や句点を打ち忘れたり、間違った場所に打ったりするなど、読点と句点の使い方についてまだ理解が不十分な子どももいる (⑤)。日ごろの学習の様子を見ても、友達や教師にいろいろなことを伝えようとする意欲が見られるが、書いて伝えることに難しさを感じたり、伝えたいことをうまく伝えられないもどかしさを感じたりしている子どももいる。

これらのことから、時間をかけて対象と触れ合いながら多くの特徴を見付け、書く内容を充実させることで、文を書くことができる喜びを味わいながら、その中で正しい表記について改めて理解できるよう工夫する必要がある。

イ 「学び合い」の実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、一人読みなどを通して、個の活動で自分の考えをもち、学級集団で意見を交換し合う活動が多かったが、ペアやグループで話し合ったり考えたりする活動も少しずつ経験してきている。その際に友達の発言や考え方のよさに気付くようになってきつつある。しかし、個で学びを進めることを好んでいる子どもも多く、学び合うことの必要性やよさについての認識がまだ十分ではないといえる。

これらのことから、ペアやグループでの活動の充実を図る中で、子どもたちが互いの考えや表現のよさを多く味わうことで、学び合うことの楽しさやよさに気付いたり、友達の考えを認めたりしながら学習を進めていけるように工夫していくことが大切であることが分かる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、以下のような点に重点をおいて指導していきたい。

(1) 評価方法及び評価に基づく指導について

- ・ 子どもたちの表現のよさや新たな気付きについて具体的に称賛し、学級全体へ広げるようにする。
- ・ 毎時の終末に自分の活動を振り返ったり、友達の考えや表現のよさについて考えたりする場を設定する。

(2) 個に応じた指導について

- ・ 特徴をつかむことができない子どもには、色や大きさなどの視点を表したカードを示すことで、対象に対して多くの特徴をつかむことができるようにする。
- ・ 特徴を書いたカードを基に文に書き表すことがスムーズにできない子どもには、教師との対話を通して共に考えたり、穴埋め式のワークシートを活用したりすることで、文に表すことができるようにする。

(3) 高めたい「学び方」について

- ・ 文章の組立てを考える際には、特徴を文に表したカードを自由に動かしながら考えて、まとまりごとに文章に表すことができるようにする。
- ・ 表記について正しく理解したり、表現のよさに気付いたりするために、教科書にある作例を活用して書く。

(4) 「よりよい学び合い」の場について

- ・ 対象の特徴を視点ごとに付箋式のカードに表すことで、書く対象に対して自分の考えをもつことができるようにする。
- ・ 教師が子ども一人一人の考えや表現のよさを認めて称賛することで、子どもたちが互いの考えや表現のよさについて気付いたり、学び合うことの楽しさを味わったりすることができるようにする。
- ・ グループで対象に関して尋ねたり答えたりするやりとりや読み返す活動を行うことで、対象の特徴をつかむ視点を広げたり、正しい表記方法についての確認をしたりすることができるようにするとともに、学び合うことのよさに気付くことができるようにする。

4 指導計画（全9時間）

●は、本単元における主な「学び合い」とそのねらい

過 程	時 間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導	評 価 項 目 や 評 価 方 法
つ か む 深 め る 味 高 め る ま 広 と げ め る	1	1 学校や学級にいるものやあるもので、家族に伝えたいものについて話し合う。 2 学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 学校のことを家族に伝える「1ねん2くみずかん」を作ろう。	○ 学校や学級にいる動植物、校内の遊具などの写真を見ることで、家族に伝えたい対象について具体的に考えることができるようにする。 ○ 対象の特徴について詳しく書いてある教材文と詳しく書いていない文とを比較することで、五感を通していろいろな視点から対象を観察することの大切さについて気付くことができるようにする。 ● カードの作り方について考える際には、付箋紙に特徴を書き込み、対象の絵の周りに貼っていくことで、文章を書くための自分の考えをもつことができるようにする。	・ 文に表したい対象の特徴を多く見付けようとしているか。 （発表） ・ 図鑑作りに対する意欲をもち、学習の見通しをもつことができたか。 （発表）
	4 （ 本 時 4 ／ 4 ）	3 図鑑を作るために特徴ごとの「しらせたいなカード」を作る。 ① カードの作り方について考える。 ② 自分が紹介したいものを見付ける。 ③ 自分が紹介したいものを観察し、絵に描く。 ④ 自分が紹介したいものを特徴ごとに言葉でカードに表す。（本時） ⑤ 自分の紹介したいものについて友達に話したり、友達の紹介したいものについて質問したりする。（本時）	● 友達との質問のやりとりを通して、互いの紹介したいものについて聞き合うことで、対象の特徴についての視点が広がるようにするとともに、学び合うことの楽しさを味わうことができるようにする。 ● 話し合いの手順を基にペアで質問のやりとりをすることで、グループでの話し合いがスムーズにできるようにする。 ● 質問の視点（名前や色など）のキーワードを掲示し、視点を明確にしておくことで、質問のやりとりを活発に行うことができるようにする。 ● 文章を構成する際に、書いたカードを並び替えることで、特徴ごとのまとまりを考えながら文章の組立てができるようにする。	・ 観察を通して必要な特徴を収集することができたか。 （カード） ・ 友達と知らせたいことの特徴について、質問したり、答えたりすることができたか。（観察）
	3	4 カードを基に文章を組み立てる。 ① カードを並び替えながら文章を組み立てる。 ② 書き出しの文を考える。 5 知らせたいことを紹介する文章を書く。	○ これまでの学習で学んだ文を書く上での注意点について振り返って考えることで、正しい表記方法について改めて理解できるようにする。 ○ 書いた文章を繰り返し音読することで、読点を打つ場所について考えることができるようにする。 ● できあがった文章を友達と読み合うことで、互いの作品のよさについて気付くことができるようにする。	・ まとまりごとに組立てを考え文に表すことができたか。 （ノート） ・ 句読点や主述の関係に気を付けながら文を書くことができたか。（ノート） ・ 友達の書いた文章に興味をもって読むことができたか。 （観察）
	1	6 できあがった「1ねん2くみずかん」をみんなで読み合う。 7 家族に「1ねん2くみずかん」を紹介する。	○ 家族からの読んだ感想の記録を読むことで、文章を書き上げた成就感と、更にいろいろなことを文章に書き表そうとする意欲が高まるようにする。	

時 (5/5)

自分が知らせたいものの特徴について言葉で書き表すことができる。

重点評價項目

◆重点評価項目を受けての指導

前時までの学習を想起する。

この前の国語の学習ではどんなことをしたかな。

2 学習課題を確認する。

みんな、家族に知らせたいものの絵を丁寧に描いてくれたね。今日は知らせ

しらせたいもの の ようすを ことばを つかって かこう。

3 学習の進め方について確認し、かいた絵を基に、知らせたいものの特徴を付箋紙（ミニカード）に書き込む。

みんなが知らせたいものの様子は、どんなことを書けばいいかな。

それでは、様子がよく分かるようにミニカードに書いて、絵の周りに貼っていきこうね。

4 「しらせたいなカード」を使って、友達と質問のやりとりをする。

絵の周りにミニカードが増えてきたね。

友達とカードを見せ合って、よいところを見付けたり、分からないことを聞いたりをしてみよう。

どれくらいの大きさなのかな。

子猫くらいだよ。そうだ。犬きさのことしも付け加えよう。

5 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。

友達と質問し合うことで、ミニカードもたくさん増えたね。このカードがあれば文を作ることができるかな。

「いろ、あかい。」じゃ文になっていないよ。

書く順番を決めていかないと書けないよ。どすればいいかな。

次の時間に、カードを文にしたり、順番を考えたりしていこうね。

教師の指導

前時までの学習を想起したり、掲示してある「しらせたいなカード」の絵を見たりすること、特徴を言葉で表わすことができるように通うことを学ぶ。

● 付箋紙による「ミニカード」の特徴を言葉で書き、絵の周りに貼るための考えをもつことが出来るようにする。

● 自分の知らせたいものの特徴について言（観察、発表、カード）【書くこと】自分で書いた特徴をカードに言葉で表わすことができた子ども

→ 多くの特徴を見付け出したことに對し、取り上げて称賛すること、他の子どもたちにもそのよさが伝わるようにする。

◆ 対象の特徴をうまく表せない子ども → 色や形などを、特徴ごとに書き込むワークシートを基に考えることができるようにする。

● 自分で特徴を集めた「しらせたいなカード」を用いて、ペアやグループで互いの対象に対する質問のやりとりを行うことで、自分が付くことになる。

● ペアやグループでの質問のやりとりを通して見つけた特徴を書き込む際の色の違う三つのカードを使えるようにすることにしよう。

○ 特徴が増えたら、気が付き、学び合うことの味を味わうことができるようになる。

○ スムーズに進む基に行うことができ、質問のやりとりを手順を振り返り、次回はカードの言葉を基に学習を振り返り、構成をたてて文を表わすことができるようにする。

○ 葉を文に立てて文章の構成を高め、意欲を高めるようにする。